

令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	一から始める未来の里山づくり、里山再生の教室・さとやま楽校とその実践活動
事業主体 (連絡先)	あづみの樹楽会 090-1277-9979 kiraku@plala.to
事業区分	環境保全、景観形成に関する事業、安心安全な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	791,370 円 (うち支援金: 600,000 円)

事業内容

アルプスあづみの公園 堀金・穂高地区において、
里山再生の教室・さとやま楽校を開催する。

里山再生の計画立案、整備の実践、知識・技術の
市民への波及、クマの緩衝帯造り

- ① 里山再生の教室 3回 延べ31名参加
- ② クラフト教室 2回 延べ11名参加
- ③ あづみの公園内烏川兩岸の緩衝帯伐採活動
伐倒講習会 1回 7名参加
- ④ クマ対策の伐採活動(教室4回目) 9名参加
- ⑤ " (追加教室) 10名参加



【クマ対策の緩衝帯造り活動】

【目標・ねらい】

- ① 里山再生の計画立案
- ② 里山整備活動の実践
- ③ 知識・技術の市民への波及
- ④ 下流流域へクマの侵入予防

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 計画立案のため、現状調査を行い、教室参加者目標15名以上に対し35名、延べ68名が参加した。
 - ② 翌年以降の継続・・・R7年度、第2期さとやま楽校を開催する。
 - ③ 人が入れるよう、公園内林道の整備や、倒木・掛かり木、草ウルシを除去した。
 - ④ 里山に見える化・・・現状を調査し、上空をドローン撮影し、変化を記録した。
2. クマ対策の緩衝帯伐採活動・・・R6年度は、河川敷下流流域での出没回数は、ゼロでした。

※自己評価【A】

【理由】

当初予定より、多くの参加者があった。その中から、里山再生活動に意欲を見せる人も出ている。公園の評価も高く、次年度も継続取り組みする事となった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ① この活動は、単年度に留まらず、全国的に見てモデルとなる里山再生活動として、中長期的に継続していきます。
- ② 来年度、さらに多くの市・県民に呼びかけ、第2期さとやま楽校を継続・発展させる。
- ③ クマの緩衝帯伐採活動は、さとやま楽校の実践活動として、3年目で完了を目指します。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある